まつやま が さこ 松山ヶ迫遺跡

(薩摩郡入来町浦之名松山ヶ迫)

位置と環境

松山ヶ迫遺跡は入来町浦之名松山ヶ迫に所在する。 場所は、入来町の中心部である牟多田の交差点から 県道41号(川内-加治木線)沿いの入来町と樋脇町 境北北東に延びる標高約56mの舌状台地上に所在す る。

本遺跡は、昭和63年度に分布調査を実施した折り、 発見された遺跡で、採集された遺物は土師器片であった。

周辺は、現在県道が開通し、田園地帯ではあるが 圃場整備もなされているため、遺跡が良好な状態で 残存している可能性は少ないが、松山ヶ迫遺跡以外 の遺跡も確認されている。

調査の経緯

入来町では、企業誘致事業を計画し、立地を予定 していた箇所が周知の遺跡であったことから、発掘 調査を実施することになった。

事業主体は入来町土地開発公社で,発掘調査は, 入来町教育委員会が調査主体となって平成元年度に 確認調査を実施した。本調査は,川内市歴史資料館 及び県教育委員会の協力を得て実施した。

発掘調査は、確認調査を始めに実施し、その結果 を得て遺跡が残存している箇所について、発掘調査 を実施した。

調査において,一部,層位がはっきりしない部分があり,縄文時代早期の遺物と旧石器時代の遺物が同じ層から出土している箇所があるが,全体的に良



第1図 松山ヶ迫遺跡の位置

好な状態で遺跡は残存していた。

なお、松山ヶ迫遺跡は、入来町で初めての発掘調査で、関心も高く、中世時代以前の歴史が明らかになった。

発掘調査面積は, 1,220㎡である。

遺構と遺物

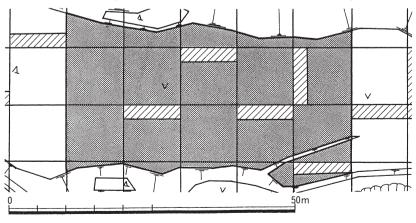
調査の結果,旧石器時代細石刃文化期,縄文時代 早期の遺物が主に発見された。

遺構は,集石が5基発見された。そのうち良好な 集石を科学保存により,入来町郷土館に保存・展示 している。

そのほか,近世土坑が発見された。

遺物は、細石器のコア (第3図1)、マイクロコア (第3図2)、ブランク、マイクロブレードなどが出土している。

縄文時代早期の土器が多数出土している。吉田式 土器(第3図3),石坂式土器(第3図4),桑ノ丸 式土器(第3図5),平栫式土器(第3図6)手向 山式土器(第3図7),塞ノ神式土器(第3図8,



第2図 発掘調査範囲図

9) 等が出土している。

縄文時代早期の石器として、石鏃、石斧、石匙、 削器、叩石、磨石等が出土している。

土器については、縄文早期の土器のバリエーションが多く、今後の土器系統を知る上で貴重な資料である。

特徴

手向山式土器の壺形土器(口縁部)や塞ノ神式土器の角筒土器が出土している。この塞ノ神式土器の角筒土器については、現在のところ本遺跡のほかに出土例はなく、極めて珍しい資料である。また、石坂式土器の出土が多く貴重な資料となった。

石鏃は出土量も多く石材の種類も豊富で,黒曜石が主であるが,玄武岩,石英,鉄石英,チャート等を素材として形態も変化に富んでいた。

遺跡の現状

本遺跡の現状は、すでに工場が立地しており、また、当時田園地帯であった周辺も今では、造成され団地となっており、当時の面影は存在しない。遺跡の一部は、破壊されないまま盛土を施され保存されている。

資料の所在

出土遺物は、入来町教育委員会に保管されている。 一部は、遺跡地に進出した(株)サンミラーノカノ ウに展示されている。

参考文献

入来町教育委員会1990『入来町内文化財分布調査概報総集録』

(藤井法博)

